

Fraser Letter

2019年11月 No. 49



モモ

ミヒャエル・エンデ著

町はずれの円形劇場あとにまよいこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらおうと、幸福な気持ちになるのです。そこへ、「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄ります……。 「時間」とは何かを問う、名作です。

請求記号 943/E59

車輪の下

ヘルマン・ヘッセ著

ひたむきな自然児で傷つきやすい少年ハンスは、周囲の人々の期待にこたえようとひたすら勉強にうちこみ、神学校の入学試験に通りますが、そこでの生活は少年の心理を踏みじめる規則づくめなものでした。少年らしい反抗に駆りたてられた彼は、学校を去って見習い工として出なおそうとしますが……。 子どもの心と生活を自らの文学のふるさととするヘッセの代表的自伝小説です。

請求記号 943/H53

今年の秋は、何を読む？

名作のご紹介 ～ドイツ編～

魔の山(上・下)

トーマス・マン著

平凡無垢なハンス・カストルプ青年が、第一次世界大戦前にスイスのアルプス山脈にあるダボスのサナトリウム「ベルクホーフ」に従兄弟ヨーアヒムを訪れることから始まります。そこで彼は結核にかかっていることがわかったために、その後7年にわたってそこに滞在することになります。その7年の滞在期間中に、サナトリウムの最高責任者ベーレンス顧問官、進歩啓蒙主義者セテムブリーニ、ロシア夫人ショーシャ、虚無主義者ナフタなど、彼は大戦前のヨーロッパの縮図を構成しているような様々な人物との交流を通して学び、成長していきます。人間存在のあり方を追求した一大教養小説です。

請求記号 943/Ma45/1・2

若きウェルテルの悩み

ゲーテ著

親友のいいなずけロッテに対するウェルテルの、ひたむきな愛とその破局を描いた書簡体の小説です。ゲーテが味わった若き日の情感と陶酔、不安と絶望が類いまれな抒情の言葉をもって吐露されています。晩年彼は、「もし生涯に『ウェルテル』が自分のために書かれたと感ずるような時期がないなら、その人は不幸だ」と語りました。

請求記号 943/G56

ヘッセ詩集

ヘルマン・ヘッセ著

ドイツ最大の抒情詩人ヘッセの全詩集から代表作を抜粋し、ノーベル賞に輝く彼の小説に勝るとも劣らぬヘッセの詩の境地を紹介します。

請求記号 941/H53



ご紹介した図書は

すべて1Fの文芸本

コーナーにあります。